

にしうらおうけつぐん
19. 西浦横穴群

所在地：敦賀市 常宮・沓

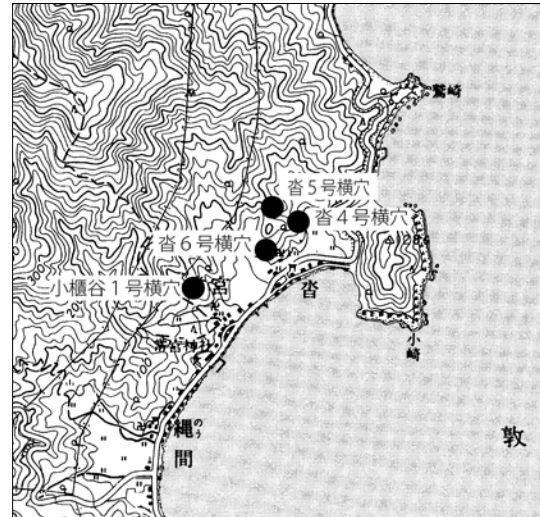
調査原因：道路建設

調査期間：平成24年8月6日～9月28日

調査主体：敦賀市教育委員会 敦賀短期大学

調査面積：約100 m²

時代：古墳時代末・中世



位置図 (S=1/50,000)

調査の概要 西浦横穴群は、敦賀半島の東海岸一帯の常宮、沓を中心に分布している横穴群で、古くは大正時代からその存在が知られていました。また道路建設に先立ち、敦賀短期大学の協力を得て周辺の範囲確認調査を行ったところ、常宮の薬研谷横穴墓群では34基もの横穴が密集して確認されるなど、県内でも有数の横穴群であることがわかってきました。

今回の調査では事前の範囲確認調査で確認され、道路建設予定範囲にかかる4基について詳細なデータを記録保存するために発掘調査を行いました。

遺構 沓4、5、6号横穴のうち、5、6号横穴は調査の結果自然地形であったり、後世の攪乱がひどかったりして詳細不明でしたが、4号横穴は良好に残存していました。

4号横穴の特徴は、主室と通路の間に方形の堅穴があることです。通常、古墳時代の横穴墓は横穴式石室を模した形になっていて、通路途中に堅穴はありません。また中世によくみられる地下式坑は、形状にバリエーションはありますが堅穴と主室のみの構造が基本で、堅穴に通路がとりつくものは稀です。しかし西浦においては沓4号横穴と同様の形状が多数を占めており、これらの形状についての系譜や意義を考える上で貴重な調査例になりました。

小櫃谷1号横穴は主室と堅坑のみの形状であり、中世の地下式坑と共通するものでした。

遺物 すべての横穴から土器等の遺物は出土せず、建造時以降に再利用がなされ片付けられていたと考えられます。ただ小櫃谷1号横穴から出土した木片について、放射性炭素年代測定を行ったところ、15世紀末～17世紀中頃の暦年代の数値が得られたことから、少なくとも江戸時代以前にこの横穴が利用されていたと考えられます。

まとめ 今回の調査では、出土遺物がほとんど無く時期の特定は困難でしたが、特異な形状である横穴について、3次元レーザー測量を用い詳細なデータを得たことで、今後の横穴研究や、西浦地域の歴史について重要な資料となると思われます。なお、今回の調査成果は『沓横穴群・小櫃谷1号横穴』として、敦賀市教育委員会により3月に刊行されています。

(中野拓郎)

